
何でも屋～ S L O W L Y ～

甘味 餡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何でも屋〜SLOWLY〜

【Nコード】

N8811I

【作者名】

甘味 飴

【あらすじ】

お金さえ払えば何でもしてくれるお店。

『何でも屋〜SLOWLY〜』

浅田零次と美人双子助手の舞&藍が送る、マツタリなのにドタバタな日常の始まり！！

第0章 動物に服を着せるが、実は動物は裸が好き

「えええええ！あの仕事やっぱりうけたんですかあああ！！」

昼下がりの休日、少女の大声が「何でも屋〈SLOWLY〉」に響きわたった。

「うっせーな。しょうがねえだる金ねえんだよ」

何でも屋の室長『浅田^{あまた} 零次^{れいじ}』は、通帳の残高を見せながら寝起きの目を擦った。

「でもでも！！探せば他にもお仕事ありますよ！！ね？ね？ほかに探しましょうよお」

両手を振りながら懸命に零次を説得している少女。名前は『犬塚^{いぬづか}舞^{まい}』

人懐っこい笑顔の美少女。

腰まであるツヤツヤな金髪のツインテールがトレードマークでグラビアアイドル顔負けのプロポーションの持ち主。

「舞、気持は分かるけど、このまま仕事しないとご飯食べれなくなっちゃうよ？」

「うぐっ…でもでもえ」

零次の机にコーヒーを置きながら舞をなだめるのは『犬塚^{いぬづか} 藍^{あい}』
舞の双子の妹。藍は舞とは対照に大人しくいつも微笑を浮かべている美少女。

腰まだ伸びたストレートの銀髪がトレードマークで舞程ではないが、なかなかのプロポーションの持ち主。

この二人が零次の下で働く、自称『美人双子助手』だ。

「藍の言つとーり。昔から言つたろ？働かず者食つべからずってよ」
「ですね」

藍はニツコリと笑って零次の左斜め後ろに立った。

「さて、お仕事しますかあ！！」

零次はニヤリと笑って立ちあがった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8811i/>

何でも屋～SLOWLY～

2010年10月9日11時40分発行